



郷民擁護興
ま—富子無一
別—富子無一
富子無一
富子無一



概要版

第1次
2023-2027

甲府市 / 2023

令和5年(2023)1月10日 発行

編集 山梨大学大学院総合研究部生命環境学域菊地研究室
甲府市教育委員会教育部生涯学習室歴史文化財課

発行 甲府市・甲府市教育委員会
〒400-0031
山梨県甲府市丸の内1丁目18-1
電話: 055-223-7324



甲府市文化財保存活用地域計画

文化財保存活用地域計画とは、地域の歴史文化にまつわるストーリーに沿って多様な文化財を理解することで、文化財を確実に継承し、まちづくりにつなげるための基本計画です。

令和4年(2022)12月に国の認定を受けた『甲府市文化財保存活用地域計画(第1次)』は令和5年度(2023)～令和9年度(2027)の5年間を期間とする計画であり、この概要版はその内容をわかりやすく紹介するものです。

甲府市の特色

か 「**交い**」の中心としての甲府： 人・物・情報の交流・集積・発信拠点

「甲斐」という地名は「交ひ」に由来するという説がある。実際、甲斐国の中心に位置する甲府市は人・物・情報の交流・集積・発信拠点として栄えてきた。ここでは、そうした本市の歴史文化の特徴を4つの観点で整理する。

甲府市は、南北を山々に挟まれ、そのあいだに甲府盆地の平野が広がっています。盆地の裾野には富士川水系の河川によって形成された多数の扇状地がみられます。

市北部の金峰山地域にはじまる宝飾・研磨産業は本市の伝統産業として、今もなお受け継がれています。また、御嶽昇仙峡、湯村温泉をはじめとする観光地があり、古代から現代までの各時代を代表する多くの文化財が残されています。古くから人と物の行き来が盛んであった本市は、現在も多く市の町と隣接し、山梨県の中心都市として県内の生活・経済・産業・文化等を支えています。

A 南・北に山が位置づく盆地の地形特性



B 舟運・往還等を通じた人・物・情報の交流



C 甲斐の中心として政治・経済・文化を牽引する甲府



D 南北に貫流する河川による恵みと災害



A

南・北に山が位置づく 盆地の地形特性

甲府市は甲府盆地の中央に位置し、南北を山に隔てられてきました。起伏に富んだ地形は大きな標高差を生み出し、多様な自然環境とそれを反映した歴史文化の形成につながっています。さらに、北部山地からの河川は市域を南に向かって流れ、笛吹川、富士川へと至ります。富士川の水は静岡県を経て、太平洋に注ぎ込みます。



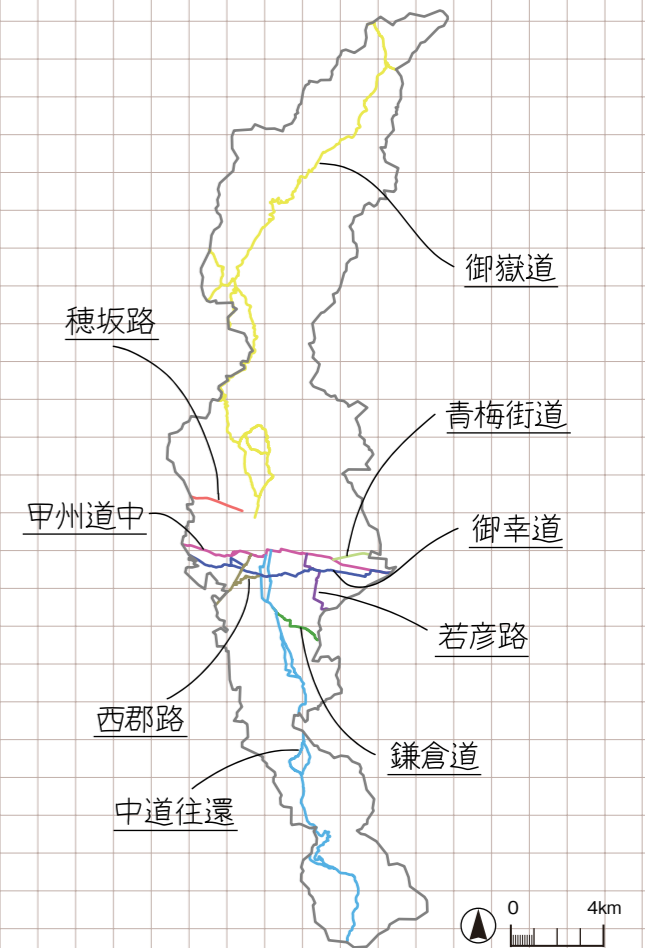
check!

市街地北部の和田峠から南を一望すると、眼前に市街地が広がり、その奥を丘陵部や山々が囲んでいるのがよくわかります。中心市街地には史跡甲府城跡や数々の近代建築が受け継がれ、南部の曾根丘陵には多くの古墳等が良好に保存されています。地形等の自然条件は、市内の各地区に多様な歴史文化や生活・生業を育み、本市の文化的な豊かさを生み出しているのです。

B

舟運・往還等を通じた 人・物・情報の交流

富士川水系による物資の輸送はいわゆる「富士川舟運」として知られ、人・物が行き交っていた東海道沿いから甲府盆地に多くの物資をもたらしました。また、南北、東西それぞれの方向に、歴史的な往還が形成されています(図)。代表的なものには、甲府市を横断するように通る甲州道中があります。こうした舟運や往還を通して、古代から現代まで人・物・情報の交流がおこなわれ、甲府は政治・産業・文化の中心として成長してきました。



C

甲斐の中心として 政治・経済・文化を牽引する甲府

甲府市は弥生時代～古墳時代には中道地区を中心に方形周溝墓や古墳が多数造られており、この頃すでに甲斐国の政治の中心でした。また、16世紀には武田氏支配の時代になり、現在の甲府駅北側にあたる古府中や山の手を拠点にして甲斐国の統治がおこなわれました。江戸時代になると徳川一門などによる統治がおこなわれ、現在の甲府駅南側周辺が城下町として整備されました。



古代 市南部の中道地区には多くの前方後円墳がつくられた
→ヤマト王権の影響

近現代 政治・文化の中心として近現代のさまざまな建造物が
現在も受け継がれている

中世 武田氏の勢力拡大によって、「甲府」は東国数々の
城下町に発展した

近世 幕府の関東における支配の拠点として発展
→幕府・徳川家との深い関わり

D

南北に貫流する河川による 恵みと災害

甲府市は盆地の特徴的な地形に由来する多くの恵みを得る一方で、河川氾濫などの被害も受けてきました。

水害に対応するため、市街地では信玄堤・背割堤などが築かれ、また、戦後には市北部に荒川ダムが建設されるなど、時代ごとに様々な治水事業が重ねられてきました。

一方で、甲府城下一帯の井戸の水は、鉄分が多く、飲料水に適さないことから、江戸時代の早い時期に荒川から水道が引かれました。いわゆる「甲府上水」です。また、甲府盆地には「セギ」と呼ばれる人工の水路があり、河川から取水した水が水田等に引き込まれ、農業用水として活かされています。



明治時代に甲府盆地が大
水害に見舞われる
→明治天皇から県に対して
御料地が下賜
↓
感謝と水害の教訓を伝える
ために大正9年(1920)
に建立
・舞鶴城公園内(史跡甲
府城跡)

災い

水道の上に作られた
まっすぐな道路
→荒川から市街地に
延びる



農業用水、生活用水として利用
するために河川から引き込まれ
た水路
→現在でもセギの一部は
農業用水等に利用

恵み



甲府上水



江戸時代前期に、飲用・生活用・防
火などを目的に甲府城下町に造られ
た上水道(荒川から取水)

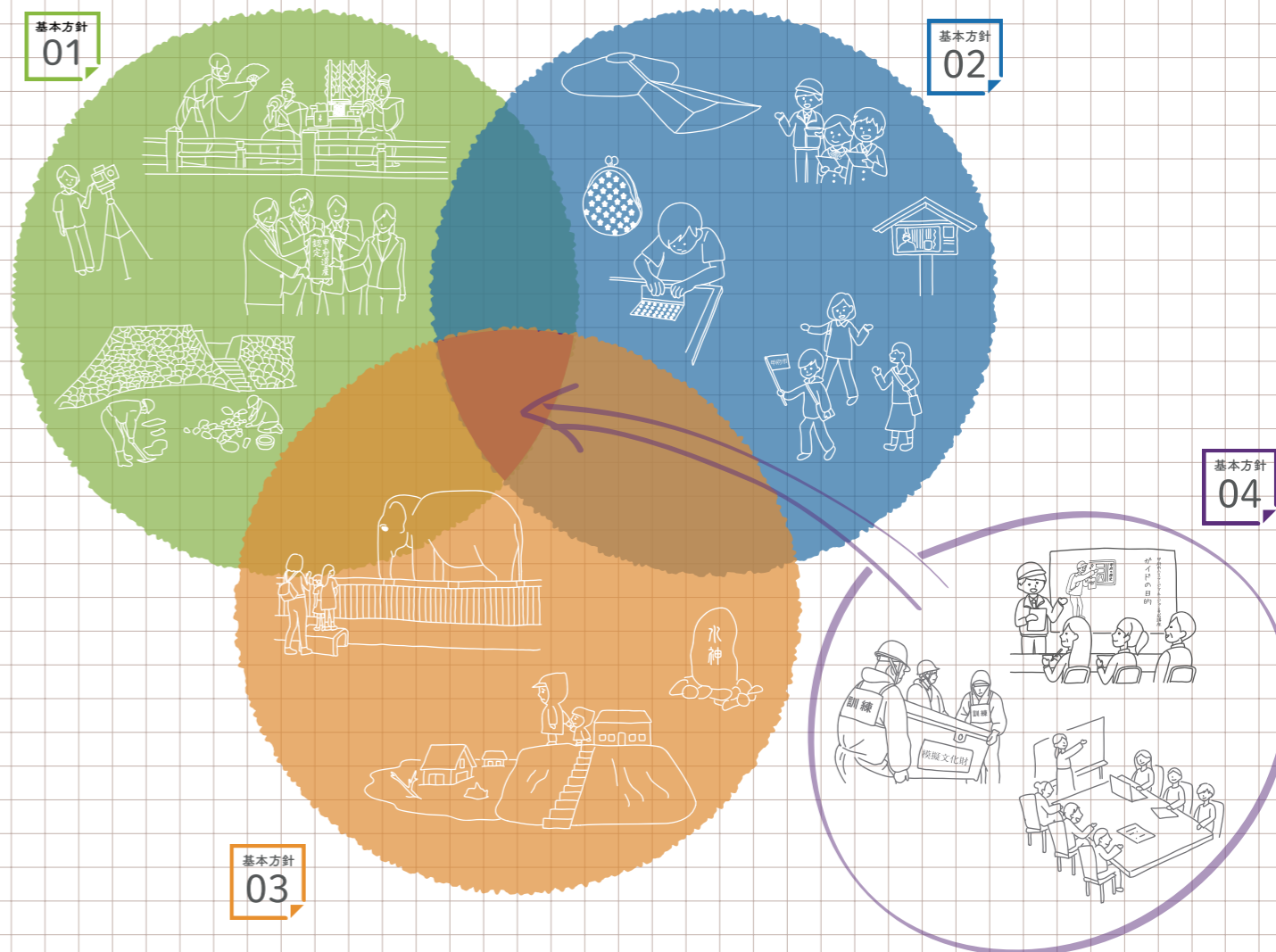
計画の将来像

か 今昔の「交ひ」が紡ぎ出す 歴史文化継承のまち 甲府

「交ひ」が生み出す歴史文化の継承、そして「交ひ」の歴史が生み出す新たな「交い」。それが文化財の保存と活用の好循環を生み出す原動力であり、人・まち・自然が共生する未来創造都市の基盤である。

これからの甲府市は、市の歴史文化の特徴である「交い」を継承しつつ、文化財の保存と活用を通して歴史文化を育み、それを創造的な地域づくりに繋げていくことを目指します。

具体的には、歴史文化（文化財）の把握・保存・活用を通して、地域の固有性を大切にしまちづくりをおこなっていきます。その中で、地域間、市民間などの新たな「交い」を創出していきます。また、長期的なビジョンとして求められる視点を展開することで、古代から現代、そして未来に繋がる『今昔の「交い」が紡ぎ出す 歴史文化継承のまち 甲府』を実現します。



地域全体の魅力向上につながることを意識した文化財の着実な調査・保存の推進

文化財の基礎的かつ着実な調査とそれに基づく保存の取組みを推進するとともに、取組みが地域全体の魅力向上に資するような意識醸成を図ります。

調査事業の推進と地域社会との接点の拡大

Point!

埋蔵文化財や無形民俗文化財を中心に、文化財調査・記録作成等に取り組めます。調査成果の公開・発信などを通じて、文化財と地域社会の結びつきを強め、本市の歴史文化に対する理解の向上を目指します。



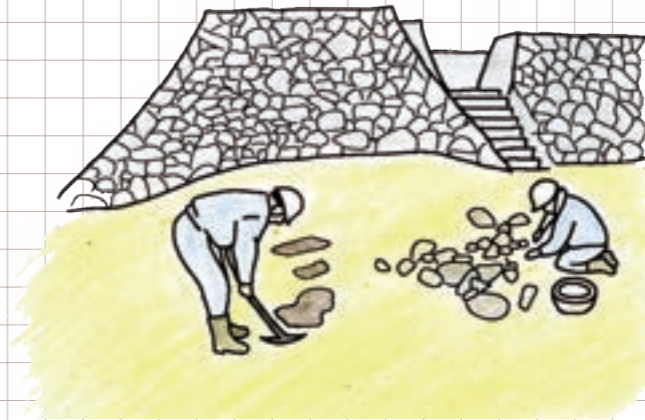
取組み例

市内における祭り・伝統芸能等に関する調査と継承のための記録作成（映像など）の実施

地域づくりにも資する文化財修理事業・整備事業の戦略的な推進

Point!

文化財の修理や整備に市民（地域住民）が関わる機会を増やし、文化財整備等を地域づくりにつなげていくことを目指します。



取組み例

武田氏館跡の調査と保存・活用のための整備の実施

未指定文化財の継続的な把握を通じた地域アイデンティティの形成

Point!

ありふれた文化財も「地域のお宝」という市民意識を育み、文化財の保存・活用をきっかけとした地域への愛着、アイデンティティの形成につなげていきます。

取組み例

（仮称）「甲府遺産」認定制度の創設



（仮称）「甲府遺産」：地域にとって「あたりまえ」の文化財を認定することで、地域の「お宝」としての認知を広げ、市民みんなで大切に受け継いでいくことを目指す制度。

基本方針

02

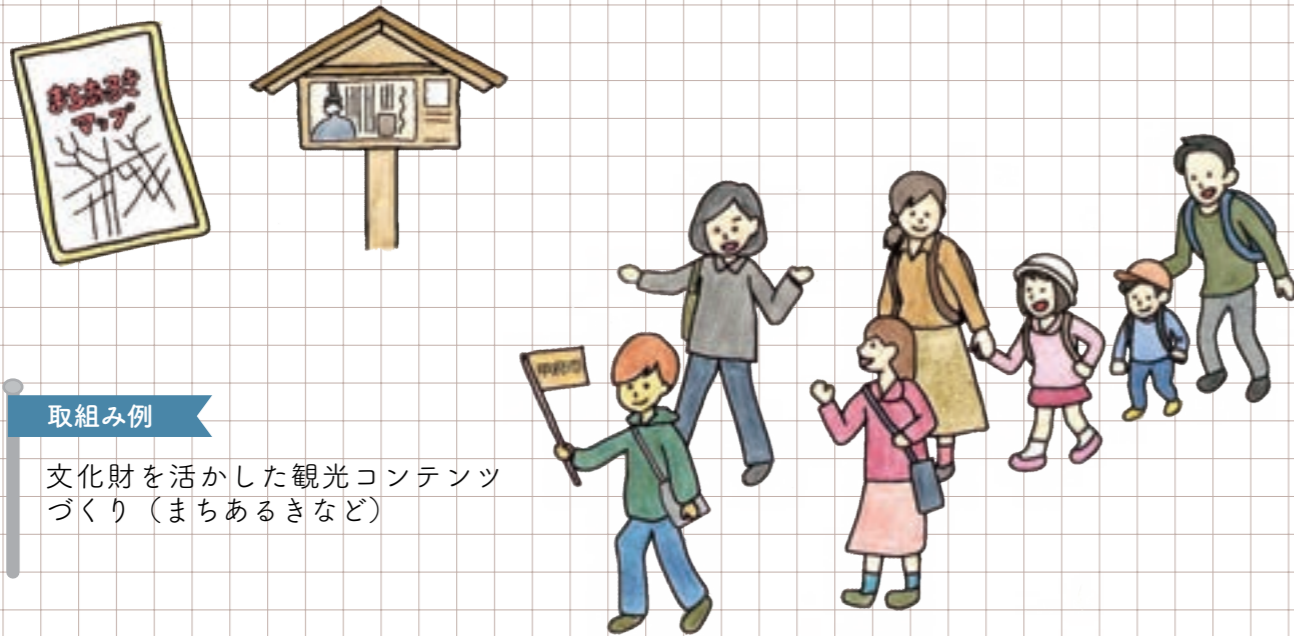
文化財を伝える・知る・楽しむ 持続可能なしかけづくりを推進

行政・市民が連携して、地域のストーリーを活かした文化財の活用等のしくみづくりを推進し、「交い」の創出を目指します。

個別の文化財や文化財保存活用区域のもつストーリーを知る/楽しむためのしかけづくりの推進

Point!

モニターツアーなどを通じた市民・観光客のニーズ分析を通じて、魅力的な文化財の活用を図り、「交い」の創出につながる取組みを推進します。



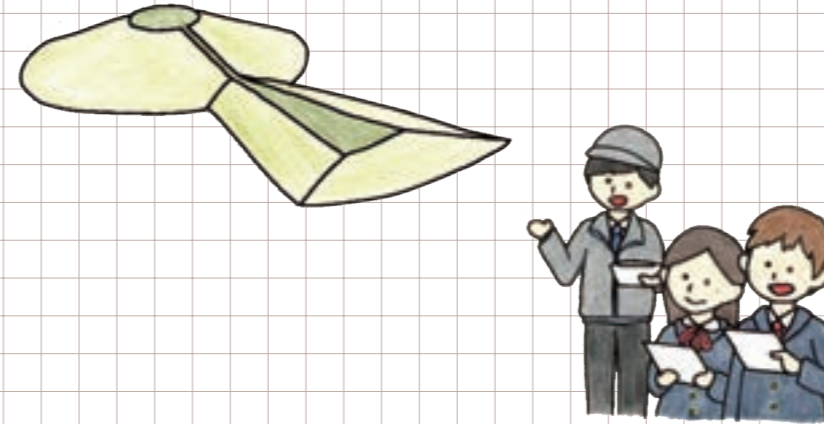
取組み例

文化財を活かした観光コンテンツづくり（まちあるきなど）

身近な文化財に対して多くの人々が目を向け、その保存・活用に関心をもてるしかけづくりの推進

Point!

（仮称）「甲府遺産」など、身近な文化財に対する認知を広げるためのしかけづくりを推進し、文化財保存・活用の「応援団」となる市民を増やします。



取組み例

市街地の古墳などを活用した学習プログラムの実施

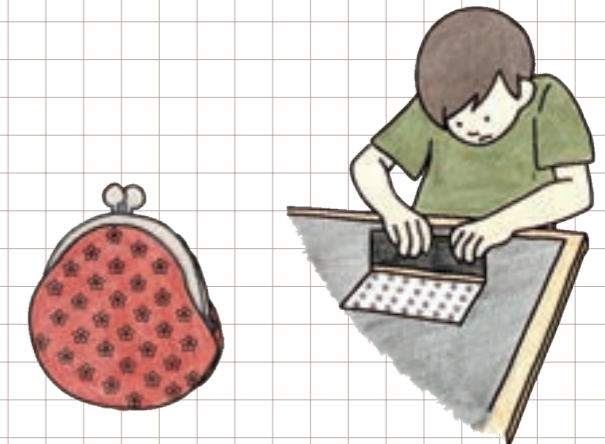
伝統工芸・農林業等とつながる歴史文化の発信強化とそれを通じた付加価値の形成

Point!

市の伝統工芸に関する歴史文化の発信などを通じたブランディングを目指します。また、地域の風土に根ざした農業やそれが形成する文化的景観の魅力の発信を通じて、農業振興につなげます。

取組み例

伝統的工芸品発信のためのワークショップなどの実施



基本方針

03

地域の「羅針盤」として歴史文化の特徴を認識

地域の歴史文化の特徴に尊重・配慮した都市・農村形成を推進するなど、歴史文化を地域の将来に向けた道標としていきます。

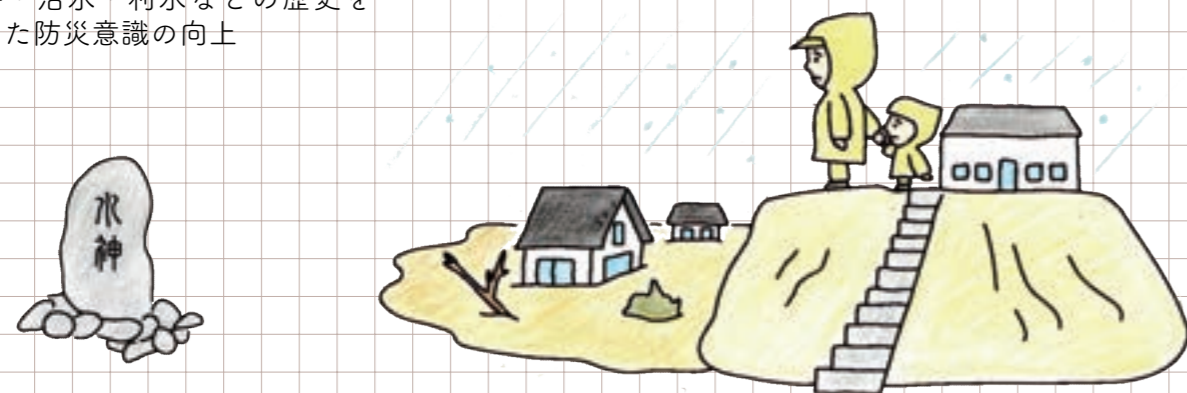
水害・治水・利水の歴史や関連する文化財をまちづくりや防災の知恵として活用

Point!

多くの水害に見舞われるなかで発達させてきた治水・利水の知恵を今後のまちづくりや防災に活かします。そのため、水害・治水の歴史やそれに関する文化財を通じて市民の意識向上につなげます。また、地域の生活・生業を支えてきた文化財である「セギ」などに対する市民の関心を広げていきます。

取組み例

水害・治水・利水などの歴史を通じた防災意識の向上



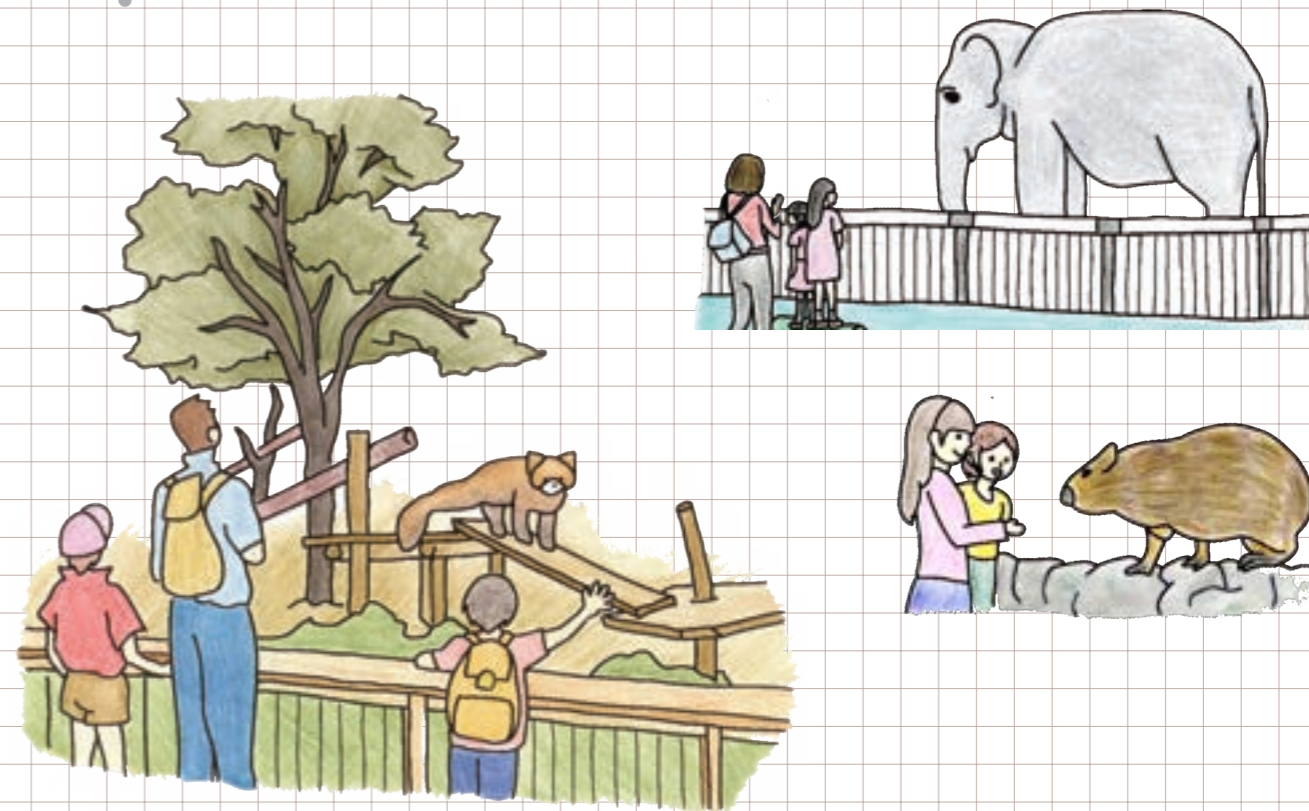
地域の歴史文化を意識した都市・農村計画や地域形成を推進

Point!

地域の歴史文化に根ざした創造的なまちづくりを進めます。また、継承への意識が及ぶにくい歴史的な地名・町名等についても、価値の理解を広げ、積極的な活用を図ります。

取組み例

甲府市遊亀公園附属動物園の再整備



文化財に関わる多様なひと・組織をつなぐ

行政だけでなく、多様な関係者の参加と効果的な連携（「交い」）によって、文化財の保存・活用を推進していきます。

歴史文化を活かしたまちづくりを目指し、部局間の連携と歴史文化に根ざした施策を推進

Point!

市役所内の連携体制を強化することで、歴史文化を活かした行政施策を強化し、文化財保護やまちづくりの効果的な推進につなげます。



取組み例

（仮称）甲府市文化財保存活用地域計画連絡協議会の開催

文化財の保存・活用の担い手となる地域の体制を拡充し、文化財所有者等も含めた地域のネットワーク構築を推進

Point!

文化財所有者や地域団体等とのコミュニケーションを強化し、文化財を取り巻く状況・課題について継続的に把握するなど、多様な関係者によるネットワークの構築を目指します。



取組み例

市内の文化財や歴史文化を紹介できるガイドの養成事業

災害時における未指定を含む文化財保護体制の構築のため、山梨県が主導する文化財防災ネットワークや関連組織・団体等との連携を推進

Point!

山梨県が設立を検討している文化財防災ネットワークなどとの連携体制を確立することで、災害時の文化財の被害状況把握やレスキュー活動の効果的な実施につなげます。

取組み例

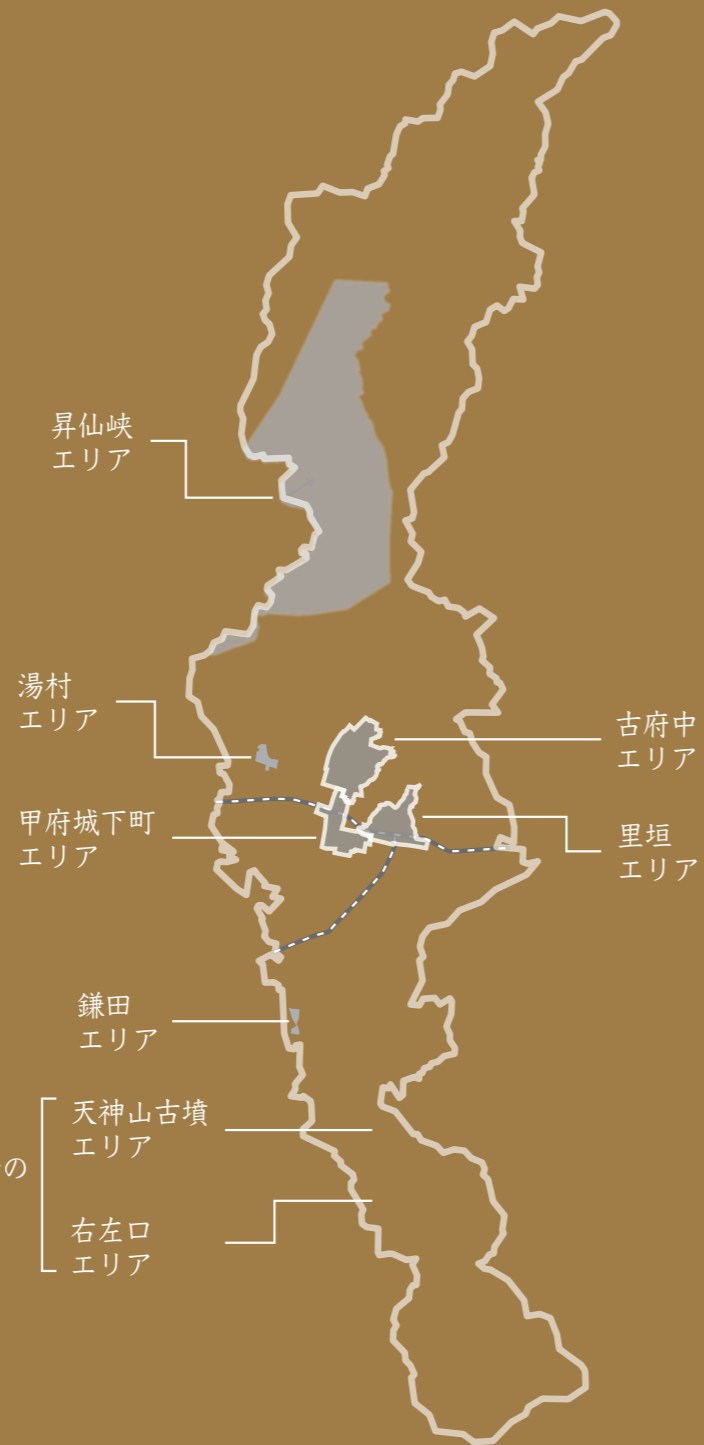
山梨県などが設置する文化財防災ネットワークとの連携



文化財保存活用区域

文化財保存活用区域は、文化財（群）の保存・活用に向けた取組みを積極的に実施する区域です。この区域では魅力的な空間づくりを目的に、今後、事業を重点的に進めていきます。

次期計画以降の候補区域



1

昇仙峡エリア

近世以前には金峰山信仰・水晶採掘の地として発展してきました。また、大正から昭和にかけての国名勝指定や「日本新八景」における日本二十五勝（渓谷）への選出などを通じて、景勝地としても広く認知されるようになりました。現在でも山梨県を代表する観光地であり、令和2年には日本遺産にも認定されました。

こんなことを目指します！

- 1 日本遺産地域活性化計画等に基づく整備・活用の推進
- 2 取組みの効果的な連携の推進
- 3 後継者が不足する無形の文化財の記録事業や継承に向けたさまざまな支援の実施

古府中エリア

史跡武田氏館跡や武田神社があるエリアで、市内を代表する観光地です。近年、甲府市武田氏館跡歴史館（信玄ミュージアム）が整備され、あわせて、旧堀田古城園の修理事業が完了しました。旧堀田古城園は、国の有形文化財に登録されました。

こんなことを目指します！

- 1 武田氏館跡の計画的な保存・活用の推進と整備後の活用の実現
- 2 甲府市武田氏館跡歴史館を拠点としたまちあるきのためのしかけづくり
- 3 文化財の保存・活用につながるエリアマネジメントの推進



甲府城下町エリア

国史跡に指定された甲府城跡のほか、近世城下町に由来する寺院などが多く立地する地域です。また、近代以降も山梨・甲府の政治、経済、文化の中心であり、多くの近代建築が保存されています。現在、城下町の歴史文化を活かした市街地活性化のための取り組みが進められています。

こんなことを目指します！

- 1 史跡甲府城跡の計画的な保存・活用の取り組みの推進
- 2 史跡甲府城跡を核とした市街地整備、まちづくりの推進
- 3 近世以降の時間の積み重なりを把握するための調査や資料収集の推進
- 4 城下町全体を五感で体感したり、歩いて発見できるしかけづくり・環境整備の推進



4

里垣エリア

市街地東側にあり、酒折宮、善光寺、東光寺など、甲府を代表する神社仏閣が多く集まる場所です。これらの寺社は多数の文化財を所有・所蔵しています。近代には甲府葡萄郷として善光寺門前にたくさんの観光ブドウ園が発達するなど、時間の積み重なりをみてとることができます。

こんなことを目指します！

- 1 歴史文化を反映した地域イメージの発信とそれを体験できる観光コンテンツ/地域をめぐる環境等の整備の推進
- 2 文化財密集地域における文化財防災体制の確立（市内のモデル化）

5

湯村エリア

弘法大師に関連する塩澤寺、湯村温泉などを中心とする市街地西側のエリアです。本市有数の温泉街であり、御嶽昇仙峡への玄関口として多くの参拝客・遊覧客も受け入れてきました。

また、古墳が多数造られた地域でもあり、現在も住宅街のなかに県指定の加牟那塚古墳、万寿森古墳などが受け継がれています。

こんなことを目指します！

- 1 文化財を活かした体験型の観光コンテンツづくりを通じた湯村温泉の新たな価値の創造（旅館組合等と連携した弘法大師に関連する事業の実施など）
- 2 小・中学校と市行政の連携強化を通じた市街地古墳学習プログラムの確立



医薬との結びつきが強く、近世・近代の地域医療を担ってきた高室家住宅、櫻林家住宅などを中心とするエリアです。高室家住宅は近世の民家建築としては本市唯一の国指定重要文化財であり、近年、5年の歳月をかけて修理事業等が実施され、不定期で市民向けの公開イベントなどを実施しています。

こんなことを目指します！

- 1 高室家住宅の保存活用計画の策定
- 2 関係者が連携し、地域や学校教育を対象にした高室家住宅活用に向けた取組みの推進
- 3 リニア中央新幹線開業に向けたエリア整備における文化財を活かしたまちづくりの推進



このなかから文化財を選びましょう。